

掲載号・キーワード・執筆者	内容
<p>その 34 (ニューズレター No.102 2021.10.発行) 「高潮の基礎知識」 押川 英夫 (佐賀大学 理工学部 准教授)</p>	<p>佐賀低平地は、台風が接近してくる南側で有明海に面しているために高潮災害の危険性が高い。氾濫被害が拡大し易い低平地では、洪水や津波、高潮を含めた水災害に格別の注意が必要である。台風時などに発生する高潮は沿岸海域の平均水面が上昇する現象であり、以下の3つの効果：①低気圧による海水面の吸い上げ、②空気の粘性（摩擦）と（湾奥で狭くなる）海岸地形に起因する吹き寄せ、③強風により発生する高波の影響、から成る。これらの内、影響が大きいのは①と②で、特に重大なのは②である。②による海面上昇量は風速の2乗に比例し、水深に反比例する。①に関しては、低気圧の通過に伴い空気が海面を押し付ける力が弱まることで、結果的に吸い上げる力が働くために海面が上昇する。③に関しては、風により発生する波は海岸に近づくにつれて高くなるものの、限界に達すると砕波（砂浜などで波が崩れる現象）が発生することに因る。なお、高潮と（地震などに因る）津波は発生要因が異なるだけで力学的には同じである（同一の式で記述できる）。その点は、高潮が風津波、暴風津波、気象津波とも呼ばれていることから理解できる</p>